

平成22年度
若手消防団員意見交換会
報告書



(財)兵庫県消防協会マスコット「消太くん」

(財)兵庫県消防協会

はじめに

消防団は、地域の安全・安心の確保のため、地域防災力の要となっています。しかし、消防団員は全国的に年々減少しており、地域防災力の低下が懸念され、消防団員の確保が大きな課題となっています。兵庫県消防協会でも消防団への理解を深めてもらい、団員確保に繋げるため、中学２年生へのクリアファイルやリーフレットの配布、ホームページの運営などを行っています。

この「若手消防団員意見交換会」は、実際に現場で活動している若手消防団員の皆様の意見をお聞きし、今後の協会の取り組みに役立てていくため、毎年各地区で実施しています。消防関係の皆様に、この意見交換会での意見をご覧いただき、今後の消防団運営や活動の参考としていただきたいと思います。

なお、この報告書では皆様の意見をテーマ別に要約して掲載しておりますので、類似した意見の割愛や文言の修正等をさせていただいておりますので、ご了承下さい。

最後に、県内各地区での意見交換会開催にご尽力いただいた各支部事務局の皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、ご参加いただいた若手消防団員の皆様の今後のご活躍をお祈りいたします。

目 次

1	入団のきっかけ	1
2	普段行われている消防団の活動	3
3	消防団活性化対策・団員確保対策	4
4	消防団に入団して思ったこと	7
5	今後改善すべき点	11
6	操法大会について	13
7	その他	15

平成22年度若手消防団員意見交換会報告書

1 入団のきっかけ

- ・親戚が入団していた関係で、手伝いをするうち興味がわき入団した。
- ・父が消防職員なので、興味があり入団した。
- ・勧誘があれば入団しなければならないという慣習がある。
- ・自治会の会合で年配の団員さんと交流が深まり、欠員が出たときに声をかけていただいた。
- ・以前から、救命に興味があり、応急手当普及員の資格が取れるということで入団した。
- ・代々消防団員だったので、何の抵抗も無く入団した。
- ・田舎の長男なので、親が勝手に入団手続きを行っていた。
- ・父が消防団員だった。その頃から、皆さんがかわいくなって下さり、消防団に対しては近しいものがあった。父の退団時に誘っていただき入団した。
- ・職域で分団を形成しており、入社後すぐに勧誘を受けた。
- ・学校を卒業後、就職して実家へ帰ると、法被が届けられていた。
- ・会社の社長からの勧めがあった。市の仕事を請け負う際、ポイント制度があり、団員を雇っているとポイントが上がるので、それで勧められたのかもしれない。
- ・車で走っているときに、看板を見て、惹かれるように入団した。分団員には高齢者が多く、若い自分が役に立ちたいとの考えを持つようになった。
- ・女性団員の存在を知らなかったが、偶然勧誘があり入団した。
- ・地元の祭り仲間がきっかけで入団した。
- ・地元の青年団等の年齢の関係上、必然的に入団している。
- ・親族や友人の紹介で入団した。
- ・自警団への参加がきっかけで入団した。

- 他市から転入し、消防団の経験は無かったが早く地元にとけ込みたくて入団した。
- 市町合併と同時に分団が新設されるのに伴い誘われた。
- 親が自治会の役員で、自分にも地域に協力して欲しいと言われた。
- 半ば強制的に入団させられた。
- 結婚して地元へ戻ると、昔からの仲間が消防団に入団しており、気軽に入団することができた。
- 青年団と消防団が一体となっており、流れで入団した。
- 万が一自分の身内が火を出すこともあるかもしれないので、入団しておいたほうが良いと思った。



2 普段行われている消防団活動

- 市民救命士講習を女性団員を中心に実施している。消防署における定例講習のほか、学校や防災コミュニティからの要請に対し、断ることなく対応している。
- 小学生対象のファイアーアドベンチャーの実施、地域から寄贈された積載車での広報パトロールなど、広報活動や住民指導に力を入れている。
- 希望する高齢者のお宅へ住警器の取り付けに出向いている。
- 小型動力ポンプによる放水訓練や規律訓練を行っている。
- 訓練にリーダー制度を設け、団員主導の訓練を進めている。
- 月1回のポンプ点検と、消火用ボックスの点検の実施。
- 自治会単位で行う野焼きで、実践的な放水訓練を行っている。
- パネルシアターで子供たちへ防火広報を行っている。先方から要請があった時や消防庁舎見学に来たときに見せたりしている。
- 子供の見回りパトロールとして、公園の見回りを行っている。
- 広報イベント、劇の上演、団員への救急講習会の指導を行っている。
- 女性団員が、応急手当普及員として活動している。
- 消防職員から訓練指導を受けている。
- 皆がポンプ車を運転できるように訓練している。
- 訓練に際しては筒先側、ポンプ側と臨機応変に対応できるようにしている。
- 機関員の指定を行い、一定の運転資格を設けている。
- 指揮命令系統と安全管理を常に考えながら活動している。
- 分団長が団員を集めて、節度面の指導を行ったり、署と団が協力して小学生との交流を深めるため、水防訓練を実施したりしている。
- 地区の防災員と一緒に活動をしている。
- 管轄区域での火災が多いので、パトロールを強化している。

3 消防団活性化対策・団員確保対策

- よくお酒を飲むイメージが先行しているので、使命感などを強調したほうが良い。
- 入団してもらわないと良さが分からないと思うので、多少強引でもまずは入団してもらい、入団者のサポート、コミュニケーションで居心地を良くすることが大切だ。
- 消防団の活動について説明に使用できるような勧誘用パンフレットをもっと作成してほしい。
- 若手が地域で就職できる環境が必要である。
- 若年層の減少により、自主防災組織との連携や自主防災組織への任務の移行も視野に入れる必要があると思う。
- 上司の後輩に対する面倒見が良いところが、若手団員たちの消防に関する気持ちを変えていくと思う。
- 中学生や高校生に訓練を見てもらい、訓練に参加させてみるのも一つの手段。若い頃に、消防団員の勇姿を見てもらうことは大切だと思う。
- 職場で消防団に対する理解、地元の活動に積極的に参加すべきという風土が活性化に繋がる。
- 運動会等の時、勧誘するのも一つの手段だと思う。
- 地区の中に若い人がおらず、この先も人が減っていくのが目に見えているので、団の再編が必要である。
- 各ポストに自営業者を配置するような制度にすれば、昼間や休みの日まで補えるというメリットがある。
- 若い団員の意見を取り入れてくれる環境、雰囲気づくりが大切である。
- 外国人の接点が無い。市へのアプローチの仕方が周知されていない。
- 外国人の消防団への需要があるかもしれない。調査を行い、県などの政策に取り入れて欲しい。待っているだけではダメ。

- 法整備等の問題があると思うが、国籍にとらわれず、入団促進が重要である。
- チラシの配布方法に工夫が必要。チラシと声掛けの両方を行っている。
- 小学校のPTAへ声をかけているが、なかなか増えない。
- 地域防災訓練指導へ行ったとき、募集のブースを設置してPRしている。
- 入団に関して世襲制度が成り立っていたが、今後は、新興住宅と昔から住んでいる人の付き合い方や、団員募集の仕方を考えていく必要がある。
- 地域の祭りの機会等に積極的な人に声をかけることが勧誘の基本。なぜなら、地元意識があり、規律を守る意識が高い。
- 可搬ポンプや他の器具について地域や分団の実情に合うように、ある程度自由に購入させて欲しい。
- 消防協会で中学2年生にチラシ等を配布してもらっているが、もっと幼い頃からの消防団に対する刷り込みも必要であると思う。
- 消防団員を抱えている事業所に対してもメリットが必要。
- 団員確保は、自治会と連携して行っている。
- 市民救命士の講習の際、出身中学校の学区内に住んでいる団員も多く、団員が後輩の中学生を教えることは有効である。
- 財産区からの補助があり、親が退団すると子供が入団するとか、分家すれば入団するという慣例があり、振興団地の住民を入団させづらい実態があるので、現在はニュータウンの各防災コミュニティから1名ずつ入団してもらうことを検討している。
- 県、国レベルで広報活動を充実させてほしい。話題を提供し、マスコミに取り上げてもらうことが重要である。
- 新入団員と年配の団員と一緒に行動しやすいように、運動を通じて交流を図っている。
- 組織として、少し堅苦しいところがあるので、もう少し自由な側面があれば入団

勧誘もしやすい。

- 女性団員の入団は、活動の規模を保つためにも必要である。
- 女子大生の団員を4名採用した。将来的には10名程度に増やしたい。大学生は期間が限られるため、特化した活動をしてもらうか検討中である。



4 消防団に入団して思ったこと

(^o^)良かったこと・嬉しかったことなど(^o^)

- 異業種交流ができる。
- 最初は、あまり活動に参加しなかったが、団員のサポート、コミュニケーションで参加するようになった。
- 若い時は消防団活動以外でやりたいことがいっぱいあったので、活動に参加できないことが多かったが、結婚して子供もできると、逆に外に出る機会が減ってくるので、消防団活動を理由に外出でき、今となっては逆に消防団活動が楽しい。
- 台風で水防活動を行った時、何日かのちに近所の方からその時のお礼を言われたことがあった。地域に貢献できている感じがしてうれしかった。地域を守るという意識が高まった。
- 消防団活動を通じて人とも知り合い、それが仕事や私生活にも間接的に反映してきている。最初はしぶしぶ入団したが、今ではすっかり変わって、入団して良かったと思っている。
- 厳しく恐ろしい団体かと思ったが、思ったよりも仲が良かった。
- たまたま消防車を運転しているところを子供の同級生に見られ、それからしばらく子供の仲間内ではヒーローのような扱いで気分が良かった。
- 特に嫌なこともなく、気持ちよく活動している。
- 若い団員が多く、上下関係もあまり無い。
- 各自が積極的に活動しており、指示命令もしやすい。
- 祭りに参加するなど、皆がよくコミュニケーションをとっている。
- 交流が広がり、知り合いが増える。
- 年齢層を超えた付き合いができる。
- 夜警や訓練指導など、地域への貢献ができる。
- 防火防災への知識が高まる。

- 入団することで、社会勉強になり社会のマナーを教えてもらえた。
- 今までは、目上の人から指示があれば下の者が動くという風潮があったが、近年は目上の人も行動するべきという風潮に変わってきた。実際の火事の現場では上も下も関係ないという気持ちで活動している。
- 私の消防団活動の姿を見た子供に、「大きくなったらお父さんみたいになりたい」と言われ、嬉しかった。
- 消防訓練を通じ、災害や消防、防災に関する自分の意識が変わった。
- 交通事故発生の現場で、消防団で学んだ知識を持って対応できたので良かったと思う。
- 親が消防団へ入団していることで、地域の人から子供へ声をかけていただく機会が多くなったような気がする。知り合いが増えて、付き合いの場が広がり、消防団活動へも団結して取り組むことができる。
- 仕事中に火災を発見して、消防署通報、消火栓使用など初期対応が迅速に行えたので良かったと思う。

(-_-)不満に思ったこと、不安に思うことなど(-_-)

- 失業率の高い現在、緊急時に出動することによっておこるリスクを考えると、消防団員、特に若い人達の消防団活動の意欲低下が心配される。
- 職場で消防団員を経験していない上司には、活動への理解が得られず、出動証明の効力が無い人もおられる。
- 火災の発生場所によって、現地到着する消防団、消防本部の順番も違って来るが、現地では、車両の大きさ、ポンプ能力、道路幅員のこともあり、瞬時の判断が難しい。
- 階級があがると、団員たちをまとめていく難しさを実感している。
- 地区で火災があった時、サイレンを鳴らしたのは団のOBの方だった。OBの方

を現役に戻せないが、OBの方々が私たちより先に現場で活動しているのが現状である。

- 会社員だと有給を使って出勤されている方がいるかと思うが、自営の人は、休んでも補償されないのが現実である。
- 喫煙者について、不満に思っている若い団員が増えたと思います。
- 来年度から「機能別団員」がスタートするが、小型ポンプ要員の人数、自動車の人数など、それぞれ決まっており、欠員が出たら、協力員にお願いすることとなるのだが、協力員には公務災害が適用にならないという問題がある。
- 訓練に集まる人が少人数である。
- 地元に若い団員がおらず、団員の年齢層が高い。
- 市民救命士講習の指導を限られた団員で回している実態がある。
- 中学の総合実習が平日なので、会社を休まねばならず、負担が大きい
- 若手が入団しても、ほとんど平日昼間時間帯に区域外へ働きに出ており、対応できないのが現状。
- ニュータウン開発による団員数の低下。
- 現場経験があまり無いことが不安。
- 以前は、退団の年齢を取り決めていたが、若手の確保の難しさから退団できない。
- サイレン吹鳴の苦情が多い。
- 活動範囲が広く、出勤回数が多い。
- ホース洗いが大変なので、行政でホースを洗う良い機械を買ってほしい。
- 火事の時、消防詰所集合か自家用車での現場集合か分からない。連絡系統が十分でないので判断できない。
- 昼間団員が少ない現在、2～3名で出勤して良いか判断に困る時がある。
- 消防団活動の行事が多いので、それが団員確保に支障をきたしている面があると思う。

- 以前、昼間に管轄地域内の会社で火災が発生したが全焼した。消防機関が現場到着するまで消火活動が行われていなかった。その会社の中にも消防団員がいたはずなのに、団員としての自覚はどうなっているのかと思う。
- 自分の時間が少ないこと。
- 新興住宅街では、近所のつきあいが希薄になりがちで、勧誘してもなかなか入ってもらえないし、消防団活動への理解も乏しい。
- 勧誘しても、常備消防があるので消防団は必要ないと言われる。



5 今後改善すべき点

- 一度だけ現場へ出動したことがあるが、何をすればよいのか分からなかったので、基礎的なことを全員が最低限身につけ、いつでも実践できるよう訓練する必要があると感じた。
- 夜の装備を充実して欲しい。以前、夜の火災活動で転倒し怪我をした事例があり、現在は分団費でヘッドライトを支給しているが、最低限の装備は支給して欲しい。
- 家用と出先用で、活動服を2着ほしい。普段活動服を常に着て生活している訳ではないので、いざ火災が起こって現場へ行く際、活動服を持っていないことが多いため。
- 新興住宅地は、その地域の人たちに任せたいほうが良いのではないだろうか。
- 年間行事をもっと早めに末端の団員まで伝えて欲しい。急に訓練などと言われても団員が集まらない。
- 以前、家族の急な発作で何もできない自分があった。救命講習で知識は持っていたが、実行できなかった。訓練の回数を増やさなくてはいけないと思った。
- 女性団員が少ないので、もっと増やすべき。
- 勤務中に火災があり、電話で確認したところ出動しているのは一人だけだった。そのような状態では、本部の人に先に動いてもらうのが先決になる。器具庫のサイレンを本部の方から鳴らすことができる設備をつけてほしい。
- 活動に参加している人とそうでない人の退職報償金が同じであるのが納得できない。ボランティアであるので見返りを求めることは筋違いかもしれないが、団員やその家族に対して何かあればよいのにとと思う。具体的には税金控除などしてもらえると、家族の理解も得られやすく、本人の責任感も強くなると思う。
- 火災が発生したときは、会社を休んで出動しているが、勤めている会社の理解が乏しいのが現実である。公休届などを市から要望してもらっているが、受理してもらえないので、県からも便宜を図ってもらえるようお願いしたい。

- 火災などの際、現場に行くのが遅かったり、集まらないことが問題だと思う。その原因の一つは、連絡を電話ではなくメールにしていることだと思う。携帯だけでなく、自宅の電話番号も登録しておくべき。連絡の仕方を見直すことも必要だと思う。
- 会社勤めの団員が出動できない理由の中には、同僚に迷惑が掛かるとか、上司の理解が得られないという事情があると思う。消防団協力事業所のマークを貼っている事業所でも、大規模災害が発生した場合に、在職している団員の出動にどれだけ対応してくれるかというのは、経営者や役員の消防団への理解度により違うと思う。理解を高めるために、消防団員を抱えている事業所に対するメリットも必要だと思う。
- 消防点検日の点検後の活動が長いときがあるが、若い団員は点検後は自分の予定で遊びに行きたい気持ちが強いと思う。もう少しけじめのある時間配分で活動すべきだと思う。点検活動に時間をかけるのであれば、計器や機械のことなど、技術習得に繋がる活動なら若い団員もやりがいがあると思う。
- 女性団員と男性団員がコミュニケーションをとる場が無いので、そういう場を設けたい。



6 操法大会について

- 実際の火事と操法は違う。操法の訓練や競技に力を入れるよりも、ポンプや機械器具の取扱講習に時間を割いた方が現実的だ。
- 操法大会が負担になっている。大会前に集中して練習を行うが、それが負担。操法大会の必要性に疑問がある。
- 新入団員の教養で覚えたことは1ヶ月程で忘れてしまっており、操法の選手として出場させてもらったおかげで、ホースの担ぎ方、延ばし方、もやい結びの仕方など、知識だけではなく実際に実用できる自信となった。
- 操法は、自分の身や同僚団員の身を守るために必要な行動が凝縮されており、意義があるものだと思う。
- ポンプ操法の訓練がハード過ぎる。これも、若者が入団を敬遠する要因の一つだと考える。
- 操法訓練で、ポンプの使用方法や声のかけ方のよい勉強になった。
- 地区大会と市大会とでルールに若干の違いがあり困った。地区大会に向けて頑張った自分があり、急な対応は難しい。どの大会でもルールは統一してほしい。
- ポンプの年式により機械の差が点数の差になってくるといえる。タイムが重要だからポンプの差が特に影響が出る。同じ消防ポンプで競ったほうが、実力が競えるのではないだろうか。新旧の消防ポンプが混在のなかでは、入賞したとしても新しいポンプの機械力の差とも考えられる。たとえば、同じポンプを順繰りでまわして練習し、大会もそのポンプを使うとか、公平性の点でもなんとか考えられないだろうか。
- 上位入賞を目指す操法は、若手の入団のネックになるのではないか。
若手のニーズに合っているのか疑問。団員間で気持ちのズレが生じているように思う。
- 練習のしすぎで家庭崩壊の危機までなる団員もいる。良い結果を残せたらその苦

労は報われるが、そこまでする必要があるのか疑問である。技術向上のための訓練で操法の練習をするのは構わないが、大会の上位を目指すために実施するのは、しんどいと感じる。

- 操法ルールの指導を受けるが、指導者によって指導内容が違っていたりすることがあり、困る。
- 操法により、分団がまとまって、気持ちや技術が向上した。
- 操法の練習以外でも、操作、知識、技術の向上が図れないだろうか。
- 操法には規律とか礼式も含まれており、また、年配の方から指導を受け、私も若い者に指導をしてきており、一つのコミュニケーションを取れるいい機会だと思っている。
- 操法の時期と祭りの時期が繋がっているため、数ヶ月ずっと家に居ない状態が続く、家庭的に問題が出る。
- 夜遅くまでの練習は、身体にきつい。
- 2年間ホース巻き、2年間選手、2年間コーチと、計6年間は最低縛られるシステムになっている。
- 団員から持ち寄った活動費を選手に渡し、操法に出てもらって成り立っている。



7 その他

- 非常招集の方法は指令台から携帯にメール配信し、出勤の可否について、返信するようなシステムになっている。
- 5名が参集すれば、後は待たずに出勤することになっている。
- 連絡事項をメール配信している。アドレスの管理は、消防本部、団本部、分団長が管理している。
- 消防団として、地域の活動にも積極的に参加している。今後は自主防災組織と連携を図って、お互いに協力し合える良い関係を続けていきたいと思っている。
- 階級が上がった途端、いわゆる幽霊団員になった人がいるので、この人についてはその期間分の退職報奨金を返金させた。
- いわゆる幽霊団員は、その年度で退団させている。
- 消防団は消防技術だけでなく、人との付き合いが大切であり、それを教えてもらい、受け継いでいくことが大切である。
- 以前、高潮が発生し床上浸水があった際、消防団員が高齢者をおぶって救助したと聞き、ボランティアでそのような事をやっているのは格好良いと思った。自分も有事の際に役に立ちたいと思う。
- 活動服よりも法被のほうが消防団らしくて良いと思う。
- 団員歴が長くなり、階級も上がると、団員の安全確保も考えるようになった。火を消すのも仕事だが、団員の安全を優先して考えないといけない。特に新入団員には、訓練で筒先を持たせて危険度を体感させているつもりだが、実際の現場とはやはり違う。また緊急走行時には、消防車が一般車両といっしょに走ることもあり、車両事故の心配もある。緊急出勤の際は、上級者が運転員を誰にするかの判断をする必要があると思っている。
- 火災現場では、消防本部の指示のもと放水している。
- 過去の出動経験で、出火元の家の人がとても興奮されていたことを覚えている。

火災時の興奮した中で、正しい判断をすることが重要だと感じた。

- 現場出動時、最初は何をして良いか分からなかったが、その後は次に何かできるかと考えるようになる。現場の雰囲気や精神面は、訓練で学べるものではない。
- 祭りの警備などは、本来の消防団活動といえるのかは疑問である。
- 水害時の土嚢運びや行方不明者捜索などは、自治会などの消防団以外の組織との連携も大切なので、連携訓練も大切で、いかに団結できるかだと思う。
- 要援護者対策のため手話の勉強をしているが、なかなか習得出来ない。
- 若手がすぐに現場に対応出来るわけではないので、ベテランがその知識を教示していかなければならない。
- 女性団員を普通分団に編入させることも必要であると考える。
- 階級が上がると平日に休まないといけない場面もある。



平成22年度若手消防団員意見交換会実施状況

地区名	開催日	開催場所	参加団員数 (人)	階級内訳 (人)		
				部長他	班長	団員
神戸	平成23年1月30日	神戸東急イン	18	16	0	2
阪神	平成23年1月30日	ホテル「ホップイン」アミング	16	1	5	10
東播磨	平成23年2月13日	加古川市防災センター	14	4	3	7
中播磨	平成23年1月23日	姫路市防災センター	22	4	6	12
北播磨	平成23年2月18日	小野市伝統産業会館	18	16	1	1
西播磨	平成23年2月13日	ホテル日新会館	14	1	9	4
但馬	平成23年1月30日	豊岡市防災通信センター	12	4	2	6
丹波	平成23年3月6日	ホロンピアホテル	13	5	4	4
淡路	平成23年3月2日	淡路広域消防ビル	16	6	3	7
合 計			143	57	33	53

(財) 兵庫県消防協会

〒650-0011

神戸市中央区下山手通4-16-3

TEL : 078-333-8073

FAX : 078-333-8076

URL <http://www.hyogoshoubou.jp/>